

いワクチンが多く、大切なワクチンと知っていても、任意接種で高額のお金がかかり受けにくく接種率が低いことがあげられている。

乳幼児期における予防接種は、生後2ヶ月より定期接種も任意接種もスタートする。任意接種のロタウイルスやB型肝炎、おたふくかぜや水ぼうそうも重症化率や後遺症率が意外と高く、子ども達を大切に考える国では、子ども達の健康を守るため定期接種化が常識である。

子どもの疾病予防と子育て支援を目的に、任意接種のロタウイルスとB型肝炎やおたふくかぜと水ぼうそうのワクチン接種費用を一部助成するべきと考えるがどうか。

現在、国においておたふくかぜや水ぼうそうの定期接種化に向け、定期接種の効果や安全性など、審議が行われている。また、ロタウイルスについても、平成25年から作業チームを設置し、予防接種の効果や安全性などが論議されていることから、これら予防接種費用の一部助成については、引き続き国の動向を注

視していききたい。

さらに、情報収集はもちろん、子育て中の関係者の皆さんに広く要望、意見等を頂戴する機会を設けていききたい。

〔その他の主な質問〕

○観光行政

まちづくり

### 市発展のため 道の駅設置を

梁瀬 里司  
(黎明21)

問 本年3月策定の行田市産業振興ビジョンには、国道125号行田バイパス沿いに地域商圏を生かした広域交流拠点の整備がうたわれている。

交流人口の拡大、本市の情報発信の拠点、物産館設置による商業、農業、観光業などの進展など、本市発展のため、道の駅の設置が必要と考えるがどうか。

また、国や県などに道の駅の実現のため、積極的に働きかけるべきと考えるがどうか。

産業振興ビジョンでは、農・商・工連携による産業交流の拠点整備として、地域商圏を生かした広域交流拠点の

整備を戦略の一つとして掲げ、125号バイパス沿いに道の駅を基本とする多機能な交流施設の設置を想定している。

また、国・県などへの働きかけについては、125号バイパス沿いは、農用地域に当たることから、法的な課題も含め、国や県と粘り強く協議していききたい。

〔その他の主な質問〕

○企業誘致

道の駅の構想は、平成10年に検討された経緯がある。その中で、国道17号熊谷バイパス沿いのさきたま古墳公園周辺の設置が有力とされた。本市の道路網は、鴻巣市方面と加須市方面と別々の方向へバイパスが通っていることを考えると、17号バイパス沿いのさきたま古墳公園周辺にも道の駅設置が必要と考えるがどうか。

道の駅2箇所設置の考えについては、産業振興ビジョンで示しているように、125号バイパス沿いに多機能複合施設の整備を考えていることから、17号バイパス沿いのさきたま古墳公園周辺の施設の整備は考えていない。

また、医療費の一部負担金の減免も含め、減免制度の周知を図り、負担の軽減をすべきではないか。

国民健康保険

### 一人1万5000円 の負担増! 広域化は中止を

大久保 忠  
(日本共産党)

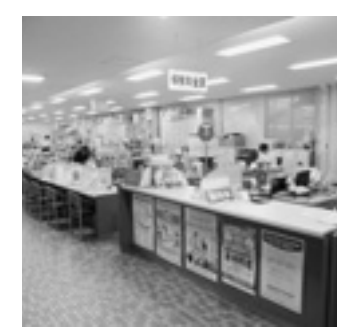
問 市町村が行なっている国民健康保険を都道府県単位にする広域化が進められている。

広域化することで、国保税の引き上げ、市独自の減免制度がなくなるなど、市民の実情や声が届きにくくなる。

国が5月に公表した試算では、最大3万9000円もの大幅な引き上げとなる。本市では1万5000円となり、大変な負担増となる。市民の命と暮らしを守るため、広域化に反対し、国保税の引き下げをすべきと考えるがどうか。

また、国民皆保険制度の中核として、地域住民の健康保持・増進に貢献しており、必要不可欠なものとして認識しているが、事業運営に苦慮していることから、国保財政の運

営基盤の強化を図る上で広域化は必要と考える。なお、国保税の引き下げは難しい。



保険年金課窓口

また、納税が困難な方には納税相談を実施し、個々の事情を把握し、納付計画を立て、自主納付を促している。それでも納付が困難な場合は減免相談を行っている。

●店舗の改修等への助成を

問 地域を活性化する上で商店街の活性化が大きな柱となる。群馬県高崎市では、まちなか商店リニューアル助成事業を始め、市内全商店が店舗の改修等で20万円以上の工事などを行った場合、その2分の1、上限100万円まで助成するものである。本市も商店への助成をしてはどうか。

答 支援のあり方については、他の先進事例や、提案内容も含め、関係機関とも連携をしながら検討していききたい。

答 支援助のあり方については、他の先進事例や、提案内容も含め、関係機関とも連携をしながら検討していききたい。